

令和4年度中予地方局予算事業成果表

1 基本事項

- (1)事業名 なす産地強化対策事業費
(2)事業期間 令和3年度～令和5年度
(3)所 管 農林水産振興部 農業振興課 地域農業育成室
(4)予算額 1,721千円

2 事業目的

中予地域は、松山長なすを中心とした県内有数のなす産地であるが、一部の害虫で農薬に対する抵抗性が発達し、殺虫効果の低下が見られている。

そこで、収量の減少や品質の低下を防ぐため、化学合成農薬に頼らない天敵昆虫等を利用した防除技術の確立に取り組むとともに、新規栽培者を確保し、なす産地の強化を図る。

3 主な取組（何をしたか）

(1) なす天敵利用技術の確立

○検討会の開催（2回）

天敵利用技術の確立を目指し、関係機関による実証・調査内容の検討、実証・調査結果の検証を実施した。

○天敵利用技術の現地実証

施設2ほ場、露地2ほ場で実証を行った(図1)。天敵温存ハウスでクレオメ(一年生植物)を植え付け、天敵のタバコカスミカメを増殖させ、適宜、栽培農家に提供した。



図1 天敵の放飼

(2) 栽培農家の確保・技術力アップ

各JAや松山市農業指導センターと連携し、新規就農研修者等を対象に栽培講習会(図2)を開催(3回)するほか、なす農家に対して栄養診断による追肥指導、土壌水分センサーによる適期かん水指導を行った。



図2 天敵を利用した講習会

4 成果（何がどう変わったか）

- 品質や収量を維持したうえで、防除回数は、施設では57%、露地では30%削減できた。
- 実証した4ほ場では、果実への被害が発生することなく、天敵昆虫(タバコカスミカメ、カブリダニ等)が順調に定着した。
- 天敵導入者は、施設12人(前年2人)、露地6人(前年1人)の計18人となった。
- 栽培講習会の開催や関係機関との連携、個別巡回等でなす栽培を推進した結果、目標の2人/年に対して4人の新規栽培者を確保した。